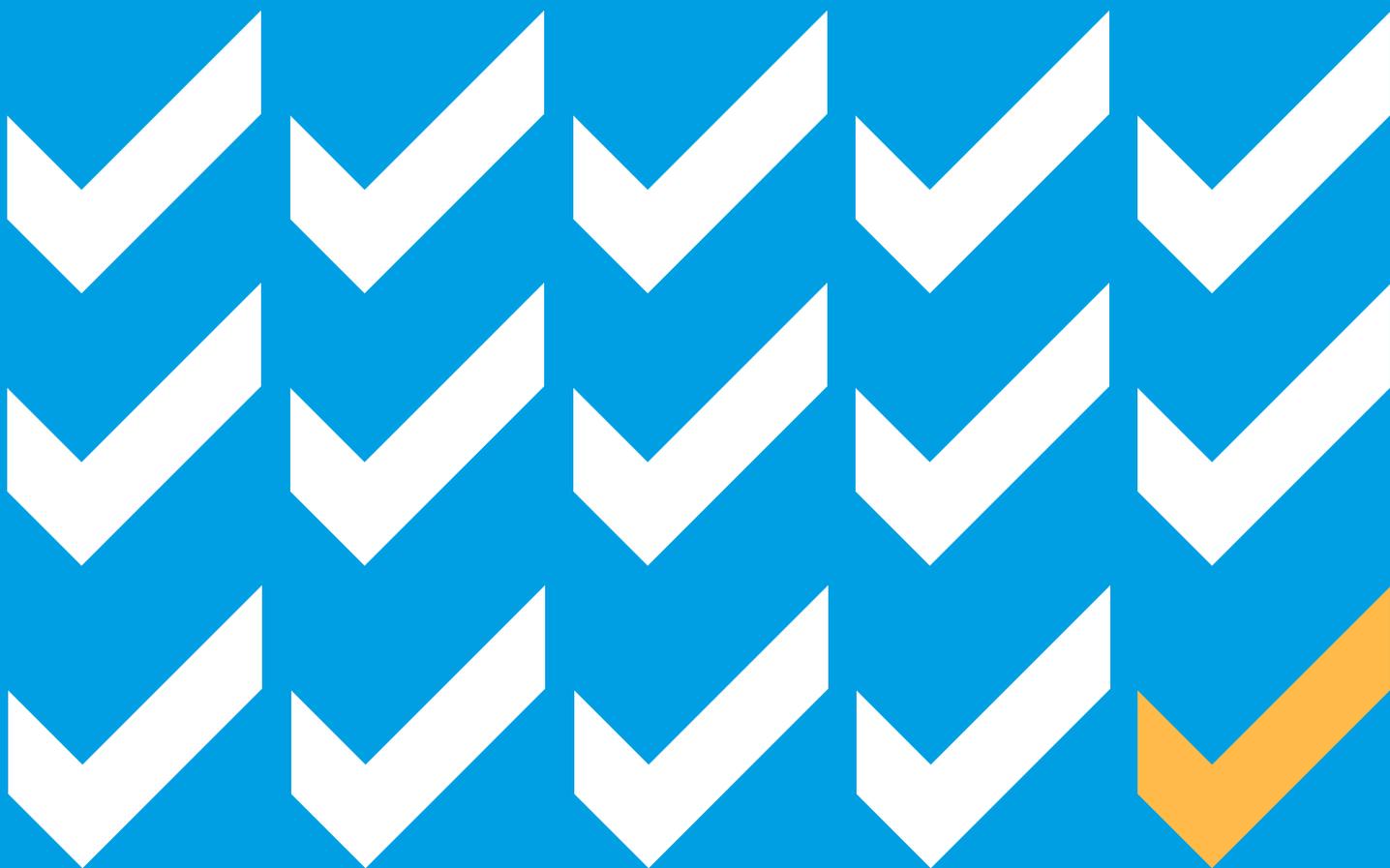


実用バイオセキュリティ チェックリスト



鳥インフルエンザ・グローバル専
門家グループ



WEOバイオセキュリティチェックリストの目的

このWEOバイオセキュリティチェックリストは、鶏卵産業がバイオセキュリティの全体的なレベルを改善するのに役立つよう設計されています。優れたバイオセキュリティは、様々な鳥類の疾病の問題を予防するのに役立つ最も重要なツールであることが証明されており、鶏卵産業が深刻な鳥インフルエンザの発生時に、感染を回避するのに役立ちます。

バイオセキュリティ計画

このバイオセキュリティチェックリストに加えて、各鶏卵生産事業者は十分に確立され合意されたバイオセキュリティ計画を持っている必要があります。それには、鳥インフルエンザ(AI)に特に重点を置いて設計されたこの実用的なバイオセキュリティチェックリストの主要な要素が含まれているはずです。

バイオセキュリティ計画では文書で、標準作業手順(SOPs)と責任範囲を特定しなければなりません。

計画は頻繁に内部監査を行うことによって補強する必要があります。

WEOの実用的なバイオセキュリティチェックリスト

重要な検討事項

バイオセキュリティプログラムというのは1計画でどの農場でも通用するものではなく、各現場やシステムに限定されたものであるべきです。

オールイン/オールアウトの農場設計は理想的ですが、鶏齢の異なる鶏舎を持つ農場でも運用を考慮したり構造上の投資をしたりすることで、バイオセキュリティを実現できます。

- 各鶏舎にオールイン/オールアウトの原則を適用する
- 運用上及び/もしくは構造上、鶏舎を分離する

明確な清浄/汚染ライン（区域）を定め、コントロールする必要があります。

- 農場のゲートおよび鶏舎入口
- 洗浄、消毒するまで農場に持ち込むものは全て汚れている/汚染されていると考える

農場職員/訪問者/仕入業者など農場入場者は皆、常にすべての農場バイオセキュリティ標準作業手順に従わなければなりません。

農場へ入るもの農場から出るものを全て追跡します（現場固有のリスク分析）。

- 人（契約社員、仕入業者、メンテナンス業者、有害生物管理者、訪問者）
- 車両（サービス/従業員/訪問者の車両、機材/郵便物/飼料/鶏糞のトラック）
- 機材（ワクチン接種設備、若雌の台車、メンテナンス機材、スキッドステアローダー、その他の大型機具）
- 若雌/成鶏（以下の監視セクション）

特定の標準作業手順が冬と夏の天候でどのように完了するか検討してください。

ショートカット/簡単な方法=感染の可能性

バイオセキュリティ計画と鶏群監視プログラムについては獣医の管理（もしくは助言）が推奨される



輸送/運搬-感染している鶏群を搬送するリスクまたは経路における汚染した鶏群の高リスク：

農場間、処理場への鶏（若雌、廃鶏前の成鶏）の移動はすべて疾病の持込みや伝染のリスク要因

家禽密集地域を通過する、その他の鶏の移動

- 経路及び状況に関する、他の家禽を扱う会社とのコミュニケーション

農場内外で鶏卵移動のために使用する機材及び物資-会社からの直接の受け取り

種卵/コマーシャル卵の移動： 国内、国外



鶏糞管理-鳥インフルエンザを含む多くの疾病に対する感染力が高い物質

大量の鶏糞-現場で鳥インフルエンザが発生した場合、どのように対処するか。

- 症状またはポリメラーゼ連鎖反応(PCR)陽性が出るまでの潜伏期間を考慮する-数日または数週間になる場合がある！

農場・生産現場近くの土地に広がる鶏糞

- 鶏糞が「地元の土地を利用」する場合、農場から半径60 マイル以上になる場合がある
- ウイルスは、臨床的な徴候 (例えば、へい死) が現れる10日前に農場に存在していた可能性がある。-感染した鶏糞はその期間に運ばれて広がる
- 鳥インフルエンザの陰性状態を確認するための受動的サーベイランス検査プログラムの重要性

鶏糞を扱う会社は、各会社や各鶏舎の間で分離が必要です。

- 協同組合や複数の農場を抱える会社は、各現場を分離するか、すべての取り扱い機材を鶏舎間で完全に洗浄・消毒(C&D)する必要がある

人員と設備-鳥インフルエンザを含む疾病管理 における第一の危険因子：

農場に持ち込まれるすべてのもの/農場から出てくるすべてのものに対
処するバイオセキュリティ標準作業手順(SOPs)

- 現場固有のリスクに対応するため獣医へ相談またはスタッフに獣医を配置

有効性とコンプライアンスを判断するため、バイオセキュリティ標準作業手順(SOPs)
を監査する訓練を受けた担当者

- 一つの手順がどの農場にも通用するわけではない
- 農場ごとの現場リスクの分析

定期的なスタッフ会議によるバイオセキュリティ手順のフォローアップ

- 例： 毎週/毎月のスタッフ会議
- 農場スタッフからのアイデア/フィードバック

1例： 屋外作業と鶏舎内作業のための衣類と履物を分ける

- 色分けは、舎内/舎外専用の衣類を識別する簡単で効果的な方法
- スタッフの規則順守を容易にするため、快適で季節に適した服装

正常に稼働させるために、一般的なメンテナンスの観点からどのようなバイオセキュ
リティ対策が必要かを検討してください。

- 例： シャワーを完備している/シャワーに必要なもの(温水、清潔なタオル、品
質のよいシャンプーなど)が揃っている。そうでなければ従業員はシャワーを使用
しない
- 経営陣もシャワーなどのルールを無視してはならない。そうでなければスタッフは
重要性を忘れる





農場に入るすべての物資に対する、消毒のいくつかのオプションのある洗浄・消毒(C&D)ステーションを外部に設けます。

- 大規模な農場では、毎日/毎週のように配達/搬入がたくさんある
- 燻蒸、熱処理、UV光などの重要な制御方法

消毒槽をきれいに維持し、毎日(または必要に応じてそれ以上の頻度で)交換します。

- 消毒槽に、破片や有機物(鶏糞、羽毛など)が入っていると効果がない

契約社員はバイオセキュリティに対する主要なリスクの1つです-可能であれば、社内に専任社員を配置しましょう。

- あるいは、施設への契約社員の立ち入りにはハセップ、危害分析重要管理点方式(HACCP)の原則を適用する

人と機材は、農場のゲートに到着した時点で汚れていると見なす必要があります。

特に様々な水鳥にとって魅力的な環境である場合は、農場周辺の身近な環境に特に注意してください。

従業員は家で鳥を飼うことを許可されるべきではありません。

農場の職員には、農場での仕事の前に、鳥の狩猟、バードショー(展示会)、動物園を避けるか、適切なダウンタイム(シャワーを浴び衣服や履物を交換し、農場から離れている規定の時間)を取るよう訓練しておく必要があります。

農場で使用する前に、外部の機材の洗浄・消毒(C&D)を点検する必要があります。

- 少なくとも24~48時間「再洗浄」する時間が必要な場合もある

個人用防護具(PPE)

不浸水性の履物のみを使用します。

- テニスシューズ/クロックスなどは洗浄や消毒が難しいため、従業員の着用を許可しない
- 定期的に履物を洗浄・消毒(C&D)する



清潔で専用のつなぎ服または鶏舎作業着を提供します。

- 定期的に洗濯し、点検する

すべての人員(外部作業員、仕入業者、訪問者、保守作業員なども含む)に快適な作業着/作業靴の選択肢を提供します。

- 労働者が幸せであると、規則はより順守される

使い捨てのつなぎ服を使用する場合は、ブーツカバーとフードが付いた不浸透性のブランド(Tyvekなど)をお勧めします。薄い紙製の使い捨てのものは使用しないでください。

使い捨てブーツカバーの場合、ゴム製の靴カバーは摩擦性に優れていますが、靴を覆うだけです。一方、丈の長いビニール/ゴム製のブーツカバーは、足/脚をカバーする点でより優れていますが、濡れた寒い天候では滑りやすくなります。

鶏舎作業用のゴム長靴には耐久性があり快適な様々な選択肢があります。

従業員が試すために複数のブランド/タイプの作業用長靴を購入することをお勧めします - 1種類の長靴が全員に適するわけではありません。

ゴム製の靴カバーは、従業員の通常の(「舎内用の」)長靴の上に着用できるため、屋外での作業に適しています。

靴底の溝が浅く、洗浄/消毒がより簡単な長靴をお勧めします。

げっ歯類、野鳥、その他の害虫からの防護

継続的なプログラム評価システムを備えた、げっ歯類および害虫の予防および管理プログラムの採用

- 野鳥、小型哺乳類は鳥インフルエンザを含む多くの疾病を広める可能性があり、鶏舎から排除する必要がある
- 野鳥が鶏舎にアクセスできてはならない。成鶏舎は、側面にしっかりしたワイヤー線があるか、完全に閉じられている必要がある
- 予防プログラムは、サービス契約または農場スタッフの管理下で実施することができる
- げっ歯類と害虫(野鳥の目撃情報、ハエ)を指標にして、有効性を追跡する



飼料と水



地表水は病原体汚染の主要なリスクになります。

- 地表水を洗浄に使用する場合は、適切な化学薬品またはUV光で処理する
- 家禽の飲用として地表水を使用することは推奨しない

飼料は害虫を引き寄せる主な物質であり、病原体で汚染されている可能性があります。

- 病原体を減らすために有機酸または化学薬品による処理が必要な場合がある
- 飼料工場で害虫や野鳥を制御し、汚染の脅威を減らす
- 飼料を配送する車両と運転手は、1日に複数の現場を訪問しているかもしれない

屋外へアクセスのある鶏

リスクの高い時期には、群れを鳥インフルエンザの感染から保護するために、地域の屋外へのアクセスを一時的に制限することが推奨されます。

- 屋外アクセスの制限に関する認証グループや規制の執行には、特別な考慮が必要
- 動物福祉を守るために、バイオセキュリティの重要性について規制機関と認証グループを教育する

鳥インフルエンザの検査/モニタリング

試験群への経済的影響とのバランスを取りながら効果的な調査を達成するため、獣医に管理してもらったり獣医に助言を求めます。

鳥インフルエンザテストプログラムをレビューします。-プログラムのタイミングと有効性?

- 国または地域の調査プログラムの検討?

鳥インフルエンザ PCR検査は受動的サーベイランスのために増やしたり、疫学的つながりのある鶏群に鳥インフルエンザ発生時にはさらに増やすことができます。

- 鳥インフルエンザポリメラーゼ連鎖反応(PCR)調査では、生きている鶏ではなく、まず日々のへい死の調査に焦点を当てる

潜在的な感染の主要な指標として、生産スタッフが試験する基準を導入します。

- 予期しないへい死ケース
- 飼料および/または水の摂取量の減少 (例： 20%以上)
- 産卵量の低下 (例： 2日以上5%を超える)

若鶏にはさらなる警戒が必要な場合があります - 鳥インフルエンザポリメラーゼ連鎖反応(PCR)テストを、若雌を移動する最大14日前まで全てのへい死に対して行うことを検討します。







鳥インフルエンザ・グローバル専門家グループ

翻訳提供はファッコ・ジャパン株式会社



www.worldeggorganisation.com

WEO鳥インフルエンザ・グローバル専門家グループの主要な長期目標は、優れたバイオセキュリティと調査を実施することでビジネスにとっての鳥インフルエンザの脅威を減らすことです。